

記録とアヴァンギャルド

—— 戦後日本における前衛記録映画論と その背景

阪本裕文

●概要

戦後の文化・芸術において、様々な領域よりリアリズムへの急進的な批判が立ち上がった。ここで批判の対象にされるリアリズムとは、「自然主義」と呼ばれるものを含みながら、「社会主義リアリズム」を指していたといえる。そして、彼ら批判者の多くがリアリズムを乗り越えるために使用したものは、アヴァンギャルド芸術=シュルレアリスムの方法であった。ここでシュルレアリスムは戦前国内における展開とは異なった様相で、記録(ドキュメント)の問題と接合して使用されることになる。

本論文では、第一部で戦前国内のプロレタリア芸術とシュルレアリスムの関係性を検討する。次に第二部で松本俊夫の「前衛記録映画論」をはじめとする記録映画の言説における旧守的リアリズムへの批判と、アヴァンギャルド芸術の導入を取り上げる。同時に当時の文化・芸術において表れた同傾向の例と比較しながら、その共通性について検討する。

●キーワード

アヴァンギャルド芸術

記録映画

ドキュメンタリー

リアリズム

シュルレアリスム